

①ー 1 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業関係 専門課程	システム工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2, 570 単位時間	1, 456 単位時間	1, 114 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2, 570 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
6 0 人		2 4 人	0 人	9 人	2 人	1 1 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） プログラマーとしての基礎能力と、SE としての知識、技術、そして人間性を向上させることを目的とし、情報処理業界の中核となれる人材を養成する。検定においては、経済産業省主催である国家資格の基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、高度情報処理試験の合格を目指す。 コンピュータを利用したシステム作りには複数の設計工程が必要で、また、通信技術、データベース技術の利用も不可欠である。このような作業を遂行するために必要な技術者が SE で、当校唯一の 3 年課程として基礎知識の習得はもちろん、実習を通して深い理解と実践力を身に付ける。 1 年次：プログラミングの基礎技術を学ぶ。2 年次：プログラミングの応用技術を学ぶ。3 年次：システムエンジニアとして必要な知識と技術を学ぶ。	

成績評価の基準・方法			
(概要)			
学生が履修した授業科目の成績の評価及びグレード・ポイント（評価により与えられる数値。以下「G P」という。）は、下記の表のとおりとする。			
評価		得点	G P
A	基準を超えて優秀である	8 0 点以上	3. 0
B	基準に十分達している	7 0 ～ 7 9 点	2. 0
C	単位を認める最低限の基準に達している	6 0 ～ 6 9 点	1. 0
D	基準を下回っている（不合格）	5 9 点以下	0. 0

G P Aは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$G P A = \frac{(G P \times \text{時間数}) \text{ の総和 }}{\text{履修科目の総時間数}}$$
卒業・進級の認定基準			
(概要)			
(1) 進級の要件			
① 年次出席率 80%以上			
② 科目ごとの総合評価がすべて C 以上			
③ 学費及び補助活動費が納入済み			
※上記①～③の条件のすべてを満たさない者は、進級できず留年となる。ただし、特別に学校長が認めた者については、この限りではない。			
(2) 卒業の要件			
① 卒業基準検定・資格の取得			

これを満たせない者は、同等レベルの認定試験を受験し合格すること。認定試験を受けるに際しては、他の検定取得状況、出席状況によってその受験資格の有無が決定される。
② 年次出席率 80%以上
③ 科目ごとの総合評価がすべて C 以上
④ 学費及び補助活動費が納入済み
※上記①～④の条件のすべてを満たさない者は、卒業できない。但し、特別に学校長が認めた者については、この限りではない。
学修支援等
(概要) ・入学前のガイダンスにて学校全体の説明。 ・入学後のオリエンテーションにて学科概要を説明。 ・就職研修による就職指導。 ・個別面談、三者面談で学生の状況を把握。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 (100%)	0 人 (0%)	8 人 (88.9%)	1 人 (11.1%)
(主な就職、業界等) コンピュータソフトウェア会社			
(就職指導内容) 面接、作文、筆記試験、履歴書指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 情報処理安全確保支援士試験、データベーススペシャリスト試験、応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、C 言語プログラミング能力認定試験、Excel 表計算処理技能認定試験、ビジネス能力検定ジョブパス			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	2 人	7.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 面談、カウンセリング、遅刻管理、出欠席管理、学生アンケート		